

## 第5講 ミケーネ社会と国家モデル

古典学説：アジア型の官僚制を伴う専制国家

ヴェントリスやチャドウィックの方法論

H. D. チャドウィック、『ミケーナイ社会』、安村典子訳（みすず書房、1983）

ミケーネ社会や国家をシュメールやウガリトなどの西南アジアの都市国家やヒッタイトの兵士の所有地を巡る封建的諸関係と比較。

コトナ・ケケメナと呼ばれるダモス所有地の個人への貸与や付帯する義務（カマ）、ワナカ（王）を支える宮殿の役人、エクエタを封建臣下と比較することでミケーネ社会と国家体制の特徴を炙り出していこうとする研究視点。

太田秀通氏の方法論

太田秀通、『ミケーネ社会崩壊期の研究』、（岩波書店、1962）

マルクス主義歴史観によるミケーネ社会と国家理解。

特に戦後に発見紹介されたマルクスの草稿『資本制生産に先行する諸形態』が指導動機となった。

ポリス社会に先行するミケーネ社会はより原始的な形態を留めたアジア型の社会でなければならないという理解。

ウェーバーの翻訳が出たばかりの論文『古代農業事情』の序説に展開されている国家モデル「官僚制を伴う都市王制」を援用。

宮殿に居るワナクスと呼ばれる専制的な王が、エクエタ、クァシレウからコレテ、ポロコレテ、ダモコロに至る階層的な官僚を通じてダモと呼ばれる農村を支配。

広大は王領地と並んで農村共同体の所有地が存在しており、私有地所有に依拠する古典古代型の市民階層は未だ現われておらず、個人は共同体的諸関係の中に埋没していた。

家族形態はアジア型の大家族と古典古代型の小家族の中間的形態をとっていて、拡大家族の形態がミケーネ社会を特徴付けていた。

このようなモデルの背景にはマルクス主義による発展段階的なミケーネ社会の位置付けと理解があった。

シュメール研究者前川和也氏の批判

前川和也、「シュメールとミケーネ」『京大人文学報』32（1971）  
アジア型というには宮殿経済の規模が余りにも小さすぎる  
宮殿が所有する家畜の規模が桁違いに小さい

中井の批判

土地文書からは拡大家族の存在を証明することはできない。

山川廣司氏の反論

中井の批判は考慮するに値しない。

非西南アジア・モデルの提唱：wealth-financed economy（財貨調達型経済）

ハルシュテッド、

宮殿が全土を所有し、領国内の全ての経済活動（生産、流通、蓄積、分配）を管理・統制するというレンフルーの「宮殿分配」モデルを批判。

経済における宮殿セクターと非宮殿セクターの存在。宮殿セクターではエリートの身分誇示に関わる贅沢品やその生産に携わる職人に供給される原材料や食料を管理・統制。

非宮殿セクターでは生活雑器や石器、小麦や大麦の栽培、亜麻の収穫などを行う。

宮殿セクターは宮殿に隣接する地域で直接生産し、非宮殿セクターからはその生産物を貢税という形で調達するか、Xenwia（賓客関係）を利用して地方エリートと物の交換を通じて手に入れるか、o-no（oonos<ooneomai：購買）という形態で調達した。

## ピュロス王国

### 1) 王国図



### 2) 身分構成

wa-na-ka (王)

e-qe-ta (従者)

● mo-ro-qa (持分地所有者)  
ウ te-re-ta (土地所有者)  
ロ po-me (羊飼い)  
タ ke-ra-me-u (陶工)  
ka-ke-u (鍛冶工) など  
te-o-jo do-e-ro/-ra (神の奴隷)

do-e-ro/-ra (奴隷)

qi-ri-ja-to (彼は買った)

Mi-ra-ti-ja (ミレトス女)

Ku-ni-di-ja (クニドス女)

Ri-ne-ja (亜麻織女)

Pe-ki-ti-ra<sup>2</sup> (けば立て女)

### 3) 行政組織

De-we-ro-a<sup>3</sup>-ko-ra-i-ja (アイガレオスのこちら側)

9つの区・中心地：Pa-ki-ja-ne (現エングリアノス)

Pe-ra-a<sup>3</sup>-ko-ra-i-ja (アイガレオンの向こう側)

7つの区・中心地：re-u-ko-to-ro (現トゥーリア)

ko-re-te (区長)

po-ro-ko-re-te (助役)

da-mo (村)

da-mo-ko-ro (村長)

### 4) 土地の所有形態

te-me-no (切り取り地)

ko-to-na ki-ti-me-na (占拠された土地=私有地)

ko-to-na ke-ke-me-na (放置された土地=公有地)

o-na-to (小作地)

5) 王の経済

te-me-no・・・30 一次単位

ki-ti-me-na・・・94 一次単位 (樹木 1100 本+無花果 1100 本)

cf. Pa-ki-ja-ne における全所有地・・・104 一次単位

宮殿所属の奴隷

女奴隷・・・約 750 名 (王宮に約 450 名、「こちら側」の各地に約  
100 名。「あちら側」に約 200 名)

若者・・・約 275 名

少年・・・約 100 名

貢納

青銅・金・葡萄酒など

分配

大麦・・・2 二次単位 (2.40) /月→3 四次単位 (0.30) /日

6) 軍事機構

陸軍・・・11 個部隊・800 名

部隊指揮官・・・mo-ro-qa より充当

配属将校・・・e-ge-ta より充当

海軍・・・600～700 名・20 隻の艦艇

兵員・・・地区毎に全男子住民より動員

7) ミケーネ社会は「アジア的共同体」社会か？

1 En.659 :

l.1: qe-re-qo-ta-o ki-ti-me-na.... (qe-re-qo-ta の私有地・・・)

l.5: tu-ri-ja-ti te-o-jo do-e-ra e-ke pa-ro pe-re-qo-ta pe-qo-ta....

(tu-ri-ja-ti、神の女奴隷、は老人の pe-re-qo-ta より保有する・・・)

2 Eo.224 :

l.1: a-ma-ru-ta-o ko-tona-ki-ti-me-na..... (a-ma-ru-ta の私有  
地・・・)

l.2: so-u-ro te-o-jo do-e-ro e-ke-ge o-[na]-to-pa-ro 《a-ma-ru-ta》  
‘pa-ra-ko’ ....

(so-u-ro、神の奴隷、は《a-ma-ru-ta》‘pa-ra-ko’ より小作

地を保有・・・)

1.3: e-do-mo-ne-u te-o-jo do-e-ro e-ke-qe o-[na-to] pa-ro

《a-ma-ru-ta》 ‘pa-ra-ko’ ....

(e-do-mo-ne-u、神の奴隷、は《a-ma-ru-ta》 ‘pa-ra-ko’ より小作地を保有・・・)

1.7: po-so-re-ja te-o-jo do-e-ro e-ke-qe o-na-to pa-ro

《a-ma-ru-ta》 ‘ta-ta-ro’ ....

(po-so-re-ja、神の奴隷、は《a-ma-ru-ta》 ‘ta-ta-ro’ より小作地を保有・・・)

3 Eo.444 :

1.1: [ʔqe-re-qo-ta-jo ko]-to-na ki-ti-me-na.....

([ʔqe-re-qo-ta の私]有地・・・)

1.4: [tu-ri-ja-ti te-o-jo do-e-ral] e-ke-qe pa-ro pa-da-je-we

pe-qo-ta.....

([tu-ri-ja-ti、神の女奴隷]、は老人の pa-da-je-u より保有する・・・)

8) 線文字 B 文書における家族間系を示す名詞

wo-ko (家)・pa-te (父)・ma-te (母)・ko-wo (少年)・ko-wa

(少女)・tu-ka-te (娘)・ki-ra (幼女)・i-jo (息子)

父称名 (属格形) +i-jo/ju (・・・の息子)

ミケーネ国家モデル

M.L.Galaty and W.A.Parkinson(eds.), *Rethinking Mycenaean Palaces, New Interpretations of an Old Idea*, Monograph 41, The Costen Institute of Archaeology University of California, Los Angeles, 1999.

中心地の発展と周辺

	MH	L H I - I I	L H I I I
Pylos	5.48ha	7.08ha	14-15ha
Berlerbey	1.64ha	3.32ha	3.53ha
Ordines	0.92ha	2.1ha	

Romanou                    0.3ha                    0.5ha                    2.5ha                    (E  
H 2.23ha)

宮殿が関与しない経済領域の存在

石器：農機具として生産 (P. N. Kardulias, 1999)

原材料の 68.8%は黒曜石。これはメロス島からもたらされたもの。加工片はギリシ各地に偏在。

宮殿や地域の中心地からは殆ど出土せず、周辺地域から大量に出土。

線文字B文書にも言及されず。

海外からの石材の輸入、国内での原材料の供給、加工、生産品の管理、消費者への交換について宮殿は全く関与していないし関心を寄せていない。

宮殿が生産と分配統制に関心を寄せたのはエリート達の威信を高める物資に限られていた。

織物：宮殿に生産工房が付属。多くの職人を抱える。家畜群を管理。

金属：特に青銅。海外からインゴットの形で輸入。宮殿に先ずはもたらされ、次いで各地の鍛冶工に分配加工。完成品は初期によって記録され、倉庫に備蓄。

香油、ある種の土器。宝石。象牙。

宮殿が直接関与する経済領域と間接関与する領域の存在

直接関与する領域：小麦、オリーブ、無花果、葡萄の生産と加工。羊（羊毛用）の飼育と加工。

耕作用の牛が宮殿からダモスの土地に貸与される。この土地は宮殿の管理下にある。

宮殿が耕牛を提供しダモスが労働力を提供する分益耕作。

直接生産は宮殿付属工房に供給される原材料と、工房で働く労働者に供給される食料。

貢租によって宮殿に供給される物資：間接関与。

貢租徴収の責は地方エリートが負う。

土器、穀物、豆、若い牡羊、宝石、象牙、金、亜麻。

Xenwia（賓客関係）による物資の交換。

宮殿間。宮殿外。

織物。香油。オリエントの印章。エジプトのカルトウーシュ。

o-n o (ooneomai : 購入) 文書 : 明礬や亜麻織物を購入。葡萄酒や小麦、青銅で支払い。

従来のモデル : 中近東モデル

アジア型の専制的な君主権力

官僚行政と官僚機構

宮殿による中央統制型の経済

最近のモデル

中近東の都市国家に比べて規模が小さすぎる

ピュロス王国のセンター : 最大 21ha

ウルク : 100ha (初期王朝期初期) ~ 400ha (初期王朝期末期)

アッカド帝国 : 5 万平方キロ

宮殿経済の小ささ : 既にシュメール学者によって指摘されている

王領地の狭さ、家畜群の規模の小ささ

官僚制と言えるのか

役人の官職名が少ない : e-qe-ta (伯爵)、I-je-re-ja (女神官)、ku-ra-wi-po-ro (鍵持ち)、qa-si-re-u (地方の首長)、ke-ro-si-ja (長老会)、mo-ro-qa (持分地保有者)、ko-re-te (地区長)、po-ro-ko-re-te (助役)、du-ma-te (監督官)、da-o-ko-ro (村長)、ki-ti-ta (開拓者)、me-ta-ki-ti-ta (新植民者)、a-ke-ro (使者)、ka-ru-ke (布告者)

文書行政が行われているという事がイコール官僚行政を意味しているとは限らない

文書を系時的に維持管理するという文書行政の基本が無い

非宮殿セクターの存在と大きさ

陶器の製造への言及がタブレットに無い

do-so - mo (貢租) を通じて領域内の集落から生産物を調達  
交換による調達

宗教儀礼の重要性

宮殿における宗教儀礼

数千個にのぼるキュリクスと呼ばれる盃の存在

メガロンのある部屋は宗教儀礼の場

三分の二はパートタイムで宮殿に仕え土地を支給

三分の一はフルタイムで宮殿に仕え現物を支給

中世国家とよく似た所領分散型